

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	プレート境界断層超深度掘削・観測による南海トラフ巨大地震切迫度評価
研究代表者	木村 学（東京大学・大学院理学系研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>応募者は、25ヶ国参加の統合国際深海掘削計画の一つ「南海トラフ地震発生帯掘削計画」に参加している。本研究はその掘削孔を利用して、プレート境界断層上盤、境界断層等における応力場、間隙水圧、摩擦強度等を測定する実験と、経年的な周回地震探査による応力場変化観測を組み合わせ、南海地震の切迫度とその時間的変化を定量的に算定する試みである。時間的予測に寄与すれば防災面での社会的意義は大きく、高い国際的評価も得ることができる。さらに、掘削が順調であれば十分な研究成果が見込まれる。切迫度の意義は現段階では不明瞭との意見もあったが、南海トラフ地震への対応策の一つとして有益であることから、基盤研究（S）として採択することが適当と判断した。</p>